

平成26年度「倉吉市特別支援リーダー育成研修会」概要

倉吉市教育委員会事務局学校教育課

1 目的 発達障がい等配慮を要する児童生徒に対する応用行動分析の知識と技術を学び、問題行動に対して適切な対応ができ、特別支援教育に関する事例検討で指導や助言のできるリーダーを養成することを目的とする。

2 実施日 9月18日(木) 13:00～16:45 (第2回)

3 主催 倉吉市福祉保健部子ども家庭課 倉吉市教育委員会事務局学校教育課

4 対象者 保育士、小中学校教諭

5 講師 井上 雅彦 氏

(鳥取大学大学院医学系研究科臨床心理学講座教授)

6 内容

テーマ

「今日求められる『発達支援』と『保護者支援』」

◆演習「所属機関での授業振り返り」(一人 5分程度で各所属機関での実践を発表)

◆講義「保護者支援について」

○保護者支援についての困難点

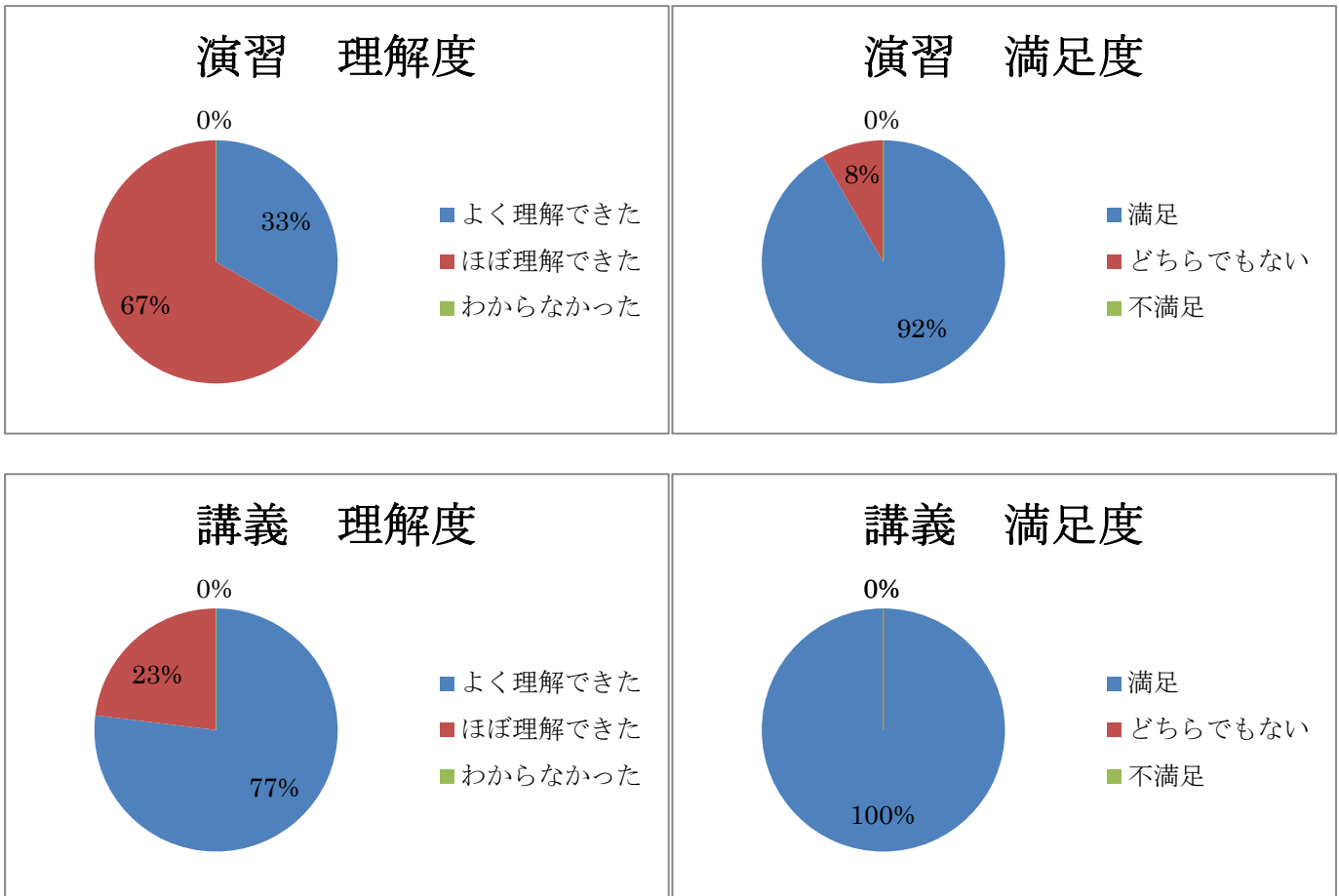
○保護者支援に必要なこと

研修参加者が各所属機関において、授業振り返りを行い、授業のユニバーサルデザインについて井上先生から御示唆をいただいた。配慮を要する児童生徒だけではなく、全ての児童生徒がより理解しやすい資料提示の仕方や声かけについて、指導者の意識改善が児童生徒の困り感の減少へつながることを確認した。

また、講義「保護者支援について」では、私たちが、教師・保育士の立場でしか保護者支援について考えることができおらず、保護者の感じる園や学校への敷居の高さや、長年にわたっての我が子への困り感の重さを、保護者の立場になって寄り添いながら支援すべきであることに気づかされた研修となった。



7 研修後のアンケート結果と感想



参加者の感想

- どの先生も、一つの行動について細かく支援する方法を考え、評価を記録することによって、意識付けが図れ、行動が改善されていると感じた。また、今回、自分の学級ではなく、他の担任に依頼して記録をしておられる方が多く、素晴らしい体制がとれていると思った。
- 教師が意識するだけで、授業の雰囲気少し変わることがよくわかった。全ての児童生徒に理解できる教材提示の仕方や話し方を意識しながら今後も取り組んでいきたい。
- 保護者に対して、上から目線になっていたのだということをつくづく感じた。親も一生懸命頑張っているということを頭において、今後対応していきたい。
- 保護者支援は、冷静に話を聞くと納得できる。ただ、直接自分が保護者と相談するとなると、なかなかできにくい。支援について共感、受容をまず大切にしていきたい。
- グループで困難点を出したとき、共通する点が多く、日々同じように悩んでおられると感じた。「難しい」と感じるだけにとどまらず、さらにどのように接していったらよいか、井上先生から具体的に話していただきよく理解できた。保護者の気持ちに寄り添える支援を目指していきたい。
- 保護者に対し、教師の目線で見えていた自分に気づいた。今後の保護者との対応に、今日の学びを活かしていきたい。

